

## 第5学年国語科の実践

1 単元名 「たずねびと」(全時間 10時間 本時 9時間目)

2 単元目標

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「子どもたちが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ・・・仲間への理解、自立する自分

- ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
- ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

これまで一人で考える時間を積極的に取り入れてきた。自分の意見をしっかりと持てる児童が多いため、まずは自分で考えることを大切にしてきた。そこからグループやペア活動につなげ、新しい意見の発見、自分の意見の強化につなげてきた。

また学級で、グループやペアでの活動の意義について考える時間を設け、三つの意見がまとまった。

①新しい意見の発見

友達の意見を聞き、新しい見方・考え方が見付き、自分の意見に付け加えたりする。

②自分の意見の強化

友達の反応から自分の意見を見つめなおし、よりよいものにしていく。

③友達の意見に共感

自分の意見をしっかりと持っても発表までできる児童が少ない中で、自分の意見に友達から共感されることで自信を持つことができる。

④友達と一緒に進化

自分の意見と友達の意見を組み合わせ、より良いものにしていく。

グループ活動やペア活動では、グループやペアによって取り組みに差がまだまだ見られる。今後も条件や目的を提示して意味のある活動にしていかなければならないと考える。

4 単元と指導について

〈単元について〉

このお話は中心人物である綾が自分と同じ名前と同じ年齢のアヤの名前を見つけ、そのアヤを探しに広島のとろくろ敷公園へ行って戦争の恐ろしさを知ったり、供養塔にいつもいるおばあさんと話すことで「亡くなった人たちを忘れない」こと「想いを受け継いで生きていく」気持ちになったりするお話である。このお話の特性として、読後感を問うと「かなしい」という感想と「よかった」という感想が出てくる。「かなしい」系の感想は子どもた

ちが文章の中で戦争の悲惨さと出会うことで生まれ、「よかった」系の感想は綾がアヤを知る人に出会って「亡くなった人たちを忘れない」という気持ちになることで生まれる。このような＋と－の読後感は戦争教材に見られる傾向かもしれない。例えば4学年で学習した「一つの花」、3学年で学習した「ちいちゃんのかげおくり」で子どもたちの感想や考えが分かれるのも、本教材と似ているように思われる。

本単元においては、単元目標の中心を

◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

と設定している。「表現の効果」については、学習指導要領解説のC読むことのエの解説において、

感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読むことが重要である。

とあり、「主題」について学習することで「表現の効果」へと迫ることができる。そこで、本単元の最後には主題を取り扱うこととする。

〈指導について〉

戦争教材であることから、まず4年生で学習した「一つの花」を読後感を用いて振り返りを行った。子どもの読後感には「戦争は悲しい」「戦争は絶対に起きてほしくない」「ゆみこは戦争で父を亡くしてかわいそう」などの意見がでた。さらに、物語の結末は＋か、－かと聞いてみると、子どもたちが＋か－を選べない様子が伺えた。そこでどのくらいの割合で＋なの？－なの？と聞くと、少し＋のほうかな、－のほうかなと自分の意見が書けるようになった。話し合いもなぜという疑問が生まれ、活発になった。この経験から今回は＋か－かの二択ではなく、「心の数直線」を扱い、自分の意思を数値で視覚的に見えるようにしていく。また、子どもたちの意見をオクリンクでテレビ画面に映し出し、全体で話し合う際に活用したい。友達の意見を見て、より関心をもって話し合いをしたり、詳しく聞くことができると考える。

本時で子どもたちが解決したい問題は「もう一度書いた『たずねびと』の読後感はプラスなのか、マイナスな

のか」である。戦争教材の特徴として読み手の読後感が分かれやすく、また個人の中でも変化が起きやすいもの

だと考える。「たずねびと」の主人公の綾は同年代の少女である。子どもは必然的に綾と自分を重ねて読んでいくことが考えられるため、綾の心情の変化とともに原爆や戦争が何をもたらすのか、新たな考えや思いを持ったり、これまでの考えや思いを変化させたりするだろう。そこで、最初の読後感と学習した後の読後感のズレを話し合

い、心の数直線を使い、なぜ数値が変化したのか、変化しなかったのか話し合いたい。本時では「もう一度書い

た『たずねびと』の読後感はプラスなのか、マイナスなのか」をもう一度全体で話し合うことで、自分の考えが

深まったり、広がったり変化したりする姿をひびき合いの姿とする。

単元構想 5年国語科「たずねびと」全10時間

単元目標	◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
------	--

この物語を読んで読後感を一文で書き話し合う①②

・ICT（オクリンク）を使って全員の考えが一目でわかるようにする。（全体での話し合いの補助）

- ・戦争や原爆は起こってほしくない。
- ・戦争や原爆がない今は平和だ。
- ・広島で起きたことを忘れてはいけない
- ・約14万人のたくさんの人が亡くなったことは悲しいことだ。
- ・アヤが見つかってよかった。

文章を音読したり朗読したりしている。  
（知識・技能）[朗読・記述]

☆ この物語の結末は+か-か割合は？  
より内容を詳しく知る必要がある。

学習計画を立てよう③

心の数直線を使って視覚化

比喩や反復などの表現の工夫に気づいている（知識・技能）  
[発言・記述]

学んできたことをもとに子供たちの決めた順番で物語を読み解いていく④⑤⑥⑦

・きっかけ      ・登場人物      ・中心人物、対人物      ・はじめとおわり

（あらためて）この物語の結末は+と-どちらなのか（本時）⑧

- +おばあさんが言っていた想いを綾が引き継いだと思う
- +戦争をしなかった綾が平和についての想いを強くできたから
- きれいだった川が赤く見えるようになって悲しいから
- 戦争でたくさんの人がなくなって悲しいから

「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（思考・表現・判断）  
[発言・記述]

話し合いにより  
さらに考えが深まったり広がったりする  
ことをねらいたい

この物語の主題は何だろう⑨

④⑤⑥⑦で読み取ったこと  
により  
考えが深まったり広がったり  
することをねらいたい

- ・なくなった人たちを忘れないこと
- ・現代の私たちが戦争を起こさないようにすること
- ・戦争ではたくさんの人たちがなくなってしまう

友達の考えを聞き、自分の考えに取り入れたり、自分の考えを広げたりしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）  
[発言・観察]

積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）  
[発言・記述]

本時について

本時目標 これまでの学習を踏まえてもう一度書いた読後感について話し合い、さらに考えを深めたり広げたりすることができる。

学習活動	主な支援・留意点 ◇評価【観点】
<p data-bbox="168 319 235 582">☆振り返り</p> <p data-bbox="436 734 504 997">心の数直線</p> <div data-bbox="728 295 1176 813"><p data-bbox="1153 406 1187 494">プラス</p><ul style="list-style-type: none"><li>・不思議が晴れて良かったし、おばあさんに会えてよかった。</li><li>・綾がアヤの話を聞いて良かった。</li><li>・私たちが忘れずに、原爆や被爆者の思いをつないでいきたい。</li></ul></div> <div data-bbox="728 869 1176 1388"><p data-bbox="1153 973 1187 1077">マイナス</p><ul style="list-style-type: none"><li>・やっぱり戦争はよくないと思った。</li><li>・14万人もの人が亡くなった。</li><li>・アヤちゃんが亡くなったことがやはり悲しい</li></ul></div> <div data-bbox="1288 287 1422 1396"><p>◎もう一度書いたたずねびとの読後感はプラスなのか、マイナスなのか？</p></div>	<p>・前時は、これまでの学習を踏まえて読後感をもう一度考えた。心の数直線も変化している児童もいる。</p> <p>・話し合いの途中で、前時に行った心の数直線をテレビや板書で掲示し、全体に共有する。</p> <p>☆焦点化のポイント 最初の読後感と学習をした後の読後感の違い。 心の数直線がなぜ変わったのか。</p> <p>◆今まで学習したことや話し合いを通して、さらに考えを深めたり、表現したりしている。【思考・判断・表現】（発言・ノート）</p>

## 7 実践を終えて

授業の初めに4年生で学習した「一つの花」を読後感を用いて振り返りを行い、そこで+か-かを決めきれない子どもが多くいたため、本単元では心の数直線を用いて意見を数値化した。その結果、子どもの意見の変化がわかりやすく、児童の「なんで」を多く引き出した。また、友達の意見を聴いて自分の意見が変わる児童が多く、相手を意識した発表もできた。

### 〈成果と課題〉

#### 【成果】

- ・読後感を授業の最初と最後に用いたことで、自分の考えが深まったり、友達の意見を聴いて意見が変わったりした。
- ・自分の意見を心の数直線で数値化したことで、変化を視覚的に見ることができた。また、その変化が大きかったため、児童の興味を惹くことができた。
- ・児童が掲示物を使いながらうまく説明していた。
- ・「～さんが言っていたように」「～さんの意見に似ている」など友達の意見を意識して発言する子どもが多かった。

#### 【課題】

- ・発言が苦手な子どもへの配慮が必要であった。本時は全体の発表のみで進めたが、授業の始まりにペア活動やグループ活動を取り入れて発言しやすい雰囲気を作りたかった。
- ・授業の始まりに、ペア活動を取り入れて緊張感をほぐしてから話し合いをしたほうが、子どもたちが意見をさらに発表しやすい雰囲気になった。
- ・対立する子どものやりとりを拾い、全体の問題にしてもよかった。

